

令和4年度 第3回 東金市地域公共交通会議 議事録

1. 日 時 令和4年12月1日(木) 14時00分～16時00分

2. 開催場所 東金市役所5階 大会議室

3. 出席者 出席19名、代理3名、欠席6名、事務局5名

出席：丸委員※、仲田委員、小川委員、真行寺委員、三須委員、吉井委員、
座古委員、白石委員、佐瀬委員、子安委員、佐竹委員、宮沢委員、
土屋委員、平塚委員、飯田委員、藤井委員

神山委員(市民福祉部長)、鈴木委員(経済環境部長)、長尾委員(教育部長)

代理：渡邊委員(成松氏)、高橋委員(山口氏)、庄司委員(中村氏)

欠席：藤崎委員、石井委員、小見川委員、椎名委員※、村川委員、安川委員(都市建設部長)、

※：新規委員

事務局：醍醐企画政策部長、中田地域振興課長、矢野地域振興課主幹、山崎公共交通係長
伊藤主事、石田主事

4. 会議次第

1 開 会 【進行：矢野主幹】

・会議成立の報告

委員の過半数の出席(28名中19名出席)であり、東金市地域公共交通会議設置要綱
第7条第3項の規定により、会議が成立していることの報告

2 真行寺副会長あいさつ

3 新任委員及び事務局紹介・・・委員名簿

4 議 事 【議長 真行寺副会長】

・議事案件 (1)山崎係長より説明

(1) 第3次東金市地域公共交通計画(素案)について【審議】 資料1、資料2

5. その他

6. 閉 会

【概要及び今後の課題】

■ 議事

- (1) 第3次東金市地域公共交通計画（素案）について（資料1）承認

○ 第3次東金市地域公共交通計画（素案）について

（事務局）

【資料1、2にて説明】（承認）

（委員）

69ページ、乗合タクシーに関して「キャンセル件数の削減の方策について注意喚起する」といった文言があるが、運行方式の見直しまで踏み込んだ形での検討が必要であると思う。

原因者への注意喚起は現在でも実施しているとの回答はいただいており、減少傾向にあるかもしれないが、いまだ高い状況にある。そのような場合、原因者による問題だけではなく、運行方式そのものに問題があるかもしれないという視点に立つ必要がある。今回のアンケートの中でも乗合タクシーの帰りの予約が取れなく、一般タクシーを利用したと回答した割合が高くなっている。それが原因で利用者が離れていくことが予想されるので、行き帰りの利用につながるような仕組みを考えなければならない。

運行方式の見直しについても、この計画の方向性としては示した方がいいと思っている。その中でもキャンセルが続いた場合の対応は色々検討いただきたい。

もう一点だが、アンケートの総数で見ると「困ることがほとんどない」という人が70パーセントにのぼっているが、「実際に困っている」と回答した人の集計もした方がいいと考える。

（事務局）

乗合タクシーの利用方法などの見直しについては、ご意見を参考に肉付けしたいと考える。

また、アンケートの分析についても、「交通手段に困ってない」という人の意見と、「本当に交通手段に困っている」という人の意見は、重要度が異なると考えられるので、随時分析をしていきたい。

○ その他

（委員）

67ページにて「地域の輸送資源の活用」とあるが、具体的に民間の送迎バスがどのようなルートを回っているのか把握していれば教えていただきたい。

（事務局）

今ある移動資源の活用を検討していく段階であるため、具体的に検討している送迎バスを把握しているわけではない。

実際に自動車教習所などの送迎バスを活用している地域では、公共交通が限界に達しており、他の交通手段もなく、これらに頼らざるを得ないといった現状にある模様。

(委員)

50ページの乗合タクシーの認知度において「市民の6割が存在だけしか知らない、存在すら知らない人が3割もいる現状」とある。今後、認知度をどのように向上させようと考えているのかご教示いただきたい。

(事務局)

乗合タクシーのPR方法については、「市が開催するイベント」や「地域が開催する行事」などに出向かせていただいて、周知していこうと考えている。また、地域から要望をいただければ「出前講座」といった方法で出向いたり、地域振興課から積極的に「出前講座」をしたりして、「体験乗車券の配布」についても検討を行っていきたいと考えている。

(委員)

地元のみなさんにご協力いただくばかりで申し訳ないが、市内循環バスに「回数券」を導入すれば、「地域のみなさんの協力があって成り立ち、存続させる」という観点から、各世帯に購入してもらうなど、地域をもっと巻き込むようなことは考えられないか。

(事務局)

「回数券」もしくは「定期券」の導入について、地元の協力も得ながら検討していきたいと考えている。

(委員)

72ページ「乗合タクシーの市外乗降場の設置」について、近隣市町の医療機関へ通院する市民の利便性向上のためとあるが、「山武医療センター」や「大網病院」への利用を希望する声があると思う。進捗状況はどうなっているのか。

(事務局)

乗合タクシーの市外運行については、引き続き検討しているところではあるが、いつまでに実現するといった段階にはない。乗合タクシーは400円で運行しているので、この料金で市外まで行くとすると、様々な調整が必要になると考えられるので、まだ具体的な計画というものは立っていないのが現状である。

(委員)

先ほどの質問について、事務局をフォローするわけではないが、具体的に数値をどう見たらいいのか少しお話をさせていただく。

1つとして、「乗合タクシーの認知度」であるが、存在自体を知らなかった方が26.3パーセントとに上っている。利用促進を図ろうという考え方ももちろんあるが、そもそも今回、アンケート調査対象になっているのが、16歳以上の幅広い利用者であり、自分で移動する交通手段を持っている方たちも相当数含んでいる。そういった方たちは「自分の必要性に合わせてその利用交通手段を考えていく」という形になるので、認知してない数がどの自治体も多い。

全体のパーセンテージは、困ってない人は気にしなくてもいい。それよりも「困っている人たちが使えないという仕組みが問題である」といったところを丁寧に事務局でフォローアップしていくことが必要であると思う。

また、送迎バスの利用を検討することは大事だと思う。

しかし、その時に考えなければならないことは、東金市の場合、路線バスに加えコミュニティバスも走っており、さらに全域に乗合タクシーが動いているということである。つまり、「交通不便地域」に相当する場所はないということである。

現実的に考えると移動しようと思えば、乗合タクシーが利用できる環境があるため、それに対しては利用時間や運賃など抵抗になる要素はあったとしても利用できない環境にはない。

こういった時にこの送迎バスの利用といった仕組みをどう位置付けて組み込むかを事務局は考えなければならない。北海道の先進的な事例だが、病院と路線バスと大学の利用客が重なっているような路線について、民間バス路線と病院のバス路線が重複しているところがあった。そこで、協議を重ね、病院に行く人は診察券を見せれば無料になる、あるいは大学に通う人は、大学の通学定期を見せれば乗車できるといった運用を採用した。

ただ、乗合タクシーが市内全域で運行している中、医療機関の送迎バスを組み込んでいくのは難しい。一步間違えると、東金市が抱える交通機関全体のバランスが崩れてしまうので、位置付けをよく考えた上でどうしていくべきか、またバス事業者などと路線の考え方を協議していく必要があると思う。

もうひとつ、先ほど、コミュニティバスの利用者だけではなくて、地域が支えるという話があった。静岡県三島市にて、「サポーター制度」を導入しようということで、その地域のサポーターの掘り起こしを実施している。

また、よく言われているのは、東金市で例えるなら、サンピアなどのお店に、乗合タクシーやコミュニティバスで来た人に対し、2,000円以上、買い物をしてもらうと、帰りはキャッシュバックするといった仕組みも全国的に展開されている。

三島市もまずそれは第1ステップとして実施し、その事業者をもう少し広げようとしている。

さらにもう1つ実施しているのは、コミュニティバスのバス停の近くにある医療機関やバス利用者に、アンケート調査を実施し、「コミュニティバスが走っているところは、そもそも路線バスで運用が成り立たない。市が財政負担をしている路線であるため、そこを地域で支えるといったことに協力いただけないか」といったサポーター募集の働きかけをしている。

サンピアなどのお店に「キャッシュバックができるか」、あるいは「補助金としての募金活動ができるか」といった協議や、「1回限りなのか」あるいは「年間を通じて繰り返しサポートを維持できるか」などを協議し、仕組みの構築を図る。そういうことを、今後の公共交通計画の中に具体的に組み込もうとしている自治体もある。サポーター制度は様々な事例が全国でも広がってきている。なかなか採算が成り立たない地域の中で、事業を継続するための利用者だけによらない仕組みを検討しているので、そのあたりも情報収集していただけると、継続できるような仕組みになると思う。是非ご検討いただきたい。